「古過庵」の誕生過程紹介

「古過庵」に焦点を当て、工事過程などを紹介している「ちの旅」のパネル展

尖石縄文考古館「ちの旅」がパネル展

茅野市の「ちの観光まちづくり推進機構（DMO）」が運営する旅行ブランドの「ちの旅」は、パネル展「縄文工事大作戦！～〝藤森式〟竪穴住居『古過庵（ふるすぎあん）』ができるまで」を同市豊平の尖石縄文考古館のロビーで開いている。同館近くの与助尾根遺跡跡隣接地へ、昨年秋に造られた竪穴住居「古過庵」に焦点を当て、工事の過程や見どころなどを写真とキャプションで紹介する。

古過庵は同市出身の建築家、建築史家の藤森照信さん設計の下、市民ら計218人が協力して昨年9～11月にかけて建造。樹皮ぶきの下地に土をかぶせ土屋根とした。実際に内部で火をたいたところ、煙が逆流してしまっていたことから先月には、屋根の一部を改修する「バージョンアップワークショップ」も行った。

今後は同DMOが手掛ける「月一縄文人」「NO JOMON NO LIFE」といった縄文時代の暮らしや文化、精神を学ぶ体験型プログラムの実施会場として積極的に活用していく。

ロビー展では、藤森さんが描いた古過庵のスケッチも公開。住居を造るにあたり、当時の時代考証から、近くにある木々や石を使って必要な道具をそれぞれ自作したといい、石斧や土盛り用具などを合わせて展示している。

同DMOでちの旅を担当する田子直美さんは「制作の過程やこだわりのポイントを知りながら、実物も見てほしい」と、来場を呼び掛けている。

会期は夏ごろまでを予定している。ロビーのパネル展のみの観覧無料。開館時間は午前9時～午後4時30分。月曜休館。（平岡大輝）